

アサガオ *Ipomoea indica* を激しく加害していた (図1). 生息状況から考えて、数年前には既に当地域に侵入していた可能性がある。興味深い点として、成虫は気温が低くても (当日は手元の気温計で4°Cであった) 葉上にとまって摂食活動を行っており、採集するために手を伸ばすと飛翔せずにはぼろっと葉上から落ちる行動が観察された (他地点での観察例では、春季から秋季は飛翔して逃げるが多かった)。また、成虫以外にも幼虫や蛹 (図2) も確認され、一部の成虫は採集時には体が柔らかいいわゆるテネラルな状態であった。以上のことから、本生息地では本種は冬季も休眠せずに活動しており、ライフサイクルもだらだらしたものであることが予想される。

なお、清水 (2012) によりユアサアシプトコバチ *Brachymeria inermis* (Fonscolombe, 1840) が本種の幼虫に寄生したことが報告されているが、今回得られた幼虫の飼育では、コバチ類に寄生された個体は確認されなかった。

末筆ながら、本種の福岡県における記録をご教示頂いた小林修司氏にお礼申し上げる。

引用文献

- 小林修司, 2013. 福岡県でのヨツモンカメノコハムシの記録. KORASANA, (81): 22.
 小林修司, 2014. 福岡県でのヨツモンカメノコハムシの追加記録. KORASANA, (82): 53.
 清水 稔, 2011. 熊本市で採集されたヨツモンカメノコハムシ. 熊本博物館館報, (23): 83.
 清水 稔, 2012. ユアサアシプトコバチの新宿主ヨツモンカメノコハムシ. 熊本博物館館報, (24): 128-129.

(吉富博之 愛媛大学ミュージアム)

【短報】東京都小平市でトウキョウトラカミキリを採集

トウキョウトラカミキリ *Chlorophorus yedoensis* (Kano, 1933) は、一般に分布が局所的ながら日本海側では少なくない。しかし基準産地が「Tokyo」で種名が「yedoensis」とされるにも関わらず (Kano, 1933), 原記載以降の東京都の分布情報は、ウェブサイト上に写真とともに掲載された「東大和市蔵敷 (狭山丘陵), 武蔵村山市~埼玉県所沢市周辺では春にしばしば見かける」との非公式な報告 (星谷, 2013) があるのみであった。しかし、2015年4月12日に東京都国分寺市で本種が採集され (和田, 2015), 北多摩の近隣諸地域からの再発見が期待されていた。

筆者は、東京都小平市にある鷹の台駅から朝鮮大学校までの玉川上水沿いを通勤のために歩きながら、地上に落ちたクヌギやコナラの枯死木を拾い、それを衣装ケース内で管理していた。今春になって、その食害材から本種1頭が羽化脱出したため、東京都における追加記録としてここに報告する。

1♂, 東京都小平市小川町 (玉川上水), 2015年10月3日材採取, 2016年3月30日羽化脱出, 韓昌道採集・保管. 寄主植物: コナラ.

本個体がコナラの枯死木から羽化脱出したことから、トウキョウトラカミキリは少ないながらも玉川上水沿いに定着していると推測される。今後入念な調査を行うことで、東京都における本種の分布状況を把握していきたい。

今回の発見にあたり、有益な情報を提供して頂くとともに、本報告を勧められた新里達也博士、および玉川上水の自然保護に関して関心を与えてくださったリー智子氏に心から感謝する。

引用文献

- Kano, T., 1933. New and unrecorded Longicorn-Beetles from Japan and adjacent Territories II. Kontyû, Tokyo, 7: 132-138.
 和田武久, 2015. トウキョウトラカミキリを東京都国分寺市で採集. 月刊むし, (533): 58.
 星谷 仁, 2013. 個人ホームページ. URL <http://blogs.yahoo.co.jp/ho4ta214/archive/2013/03/24> (2013年3月24日アクセス)

(韓昌道 187-8560 小平市小川町 1-700 朝鮮大学校 体育学部)



図1. 東京都小平市小川町のコナラ枯死材から羽脱したトウキョウトラカミキリ♂。